

- 2020年4-6月期の実質GDPは前期比年率▲27.8%と記録的なマイナス成長
- 個人消費や輸出をはじめ、ほとんどの項目が成長率を押し下げ
- 7-9月期はプラス成長が期待されるが、感染再拡大を受け回復ペースは鈍い

記録的なマイナス成長

2020年4-6月期の実質国内総生産（GDP）成長率は、前期比年率▲27.8%（速報値）と、リーマンショック後の2009年1-3月期（同▲17.8%）を上回る記録的な落ち込みとなりました（図表1）。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて今年4月には緊急事態宣言が発出され、外出自粛や店舗休業が広がり、4-5月頃の経済活動の縮小は未曾有の規模となりました。日本経済は、昨年10月の消費税率引き上げ以降、3四半期連続でマイナス成長が続いたこととなります。

個人消費や輸出をはじめ、ほとんどの項目が減少

内訳を見ますと、内需、外需ともに成長率を押し下げました。個人消費（民間最終消費支出）は財・サービス消費がともに減少し、とりわけサービス消費の減少（前期比年率▲42.0%）は大きく、個人消費全体で同▲28.9%の大幅な減少となりました。また、設備投資（民間企業設備）も企業収益の悪化や不確実性の高まりから、同▲5.8%の減少に転じました。

輸出は、海外経済が急激に悪化したことや訪日外客がほぼ消滅したことから、同▲56.0%の減少となりました（インバウンド消費はサービス輸出）。

7-9月期の回復ペースは鈍い見通し

5月に緊急事態宣言が解除されたほか、特別定額給付金の支給なども受けて、4-6月期の後半には経済活動の底打ちが一部の月次統計で示唆されました（図表2）。7-9月期の成長率は、4-6月期の大幅なマイナスの反動もあり、プラスに戻る事が期待されます。

しかし、7月頃から再び感染者が増加傾向となり、家計・企業のマインドは慎重化しつつあります（図表2、先行き判断DI）。小売や娯楽施設などへの人出の戻りが頭打ちとなるなど、経済活動の回復ペースは緩慢なものとなる見通しです。

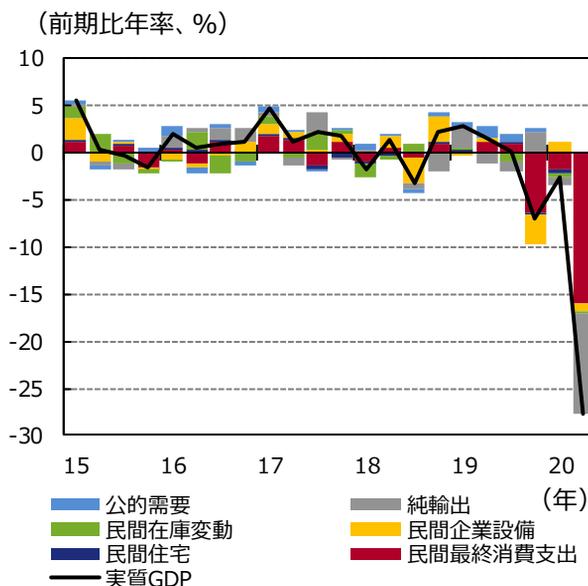
今のところ、政府・日銀による各種給付金の支給や資金繰り支援が経済の下支え要因となっています。感染防止と経済活動の両立に向け難しい状況が続く中、効果的な政策と迅速な執行が引き続き望まれます。

（調査グループ 飯塚祐子 11時執筆）

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

図表1 実質GDP成長率と寄与度

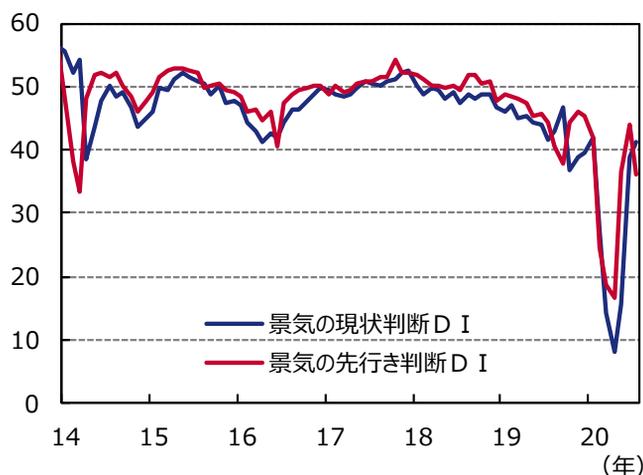
2015年1-3月期～2020年4-6月期：四半期



出所：内閣府のデータを基にアセットマネジメントOneが作成

図表2 景気ウォッチャー調査

(DI) 2014年1月～2020年7月：月次



出所：ブルームバーグのデータを基にアセットマネジメントOneが作成

※上記図表などは、将来の経済、市況、その他の投資環境にかかる動向などを示唆、保証するものではありません。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（REIT）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合があるため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。